

テーマ：消費者物価（全国13年4月、東京都区部13年5月）

発表日：2013年5月31日（金）

～東京都区部がプラス転化。全国でも5月にプラス圏に浮上する可能性あり～

 第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528

（単位：％）

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	生鮮食品を除く食料	総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	生鮮食品を除く食料
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
12	1月	0.1	▲0.1	▲0.9	4.3	0.3	▲0.2	▲0.4	▲1.1	4.4	▲0.3
	2月	0.3	0.1	▲0.6	3.0	0.4	▲0.2	▲0.3	▲1.1	3.9	▲0.2
	3月	0.5	0.2	▲0.5	4.2	0.3	▲0.1	▲0.3	▲1.0	5.3	▲0.2
	4月	0.4	0.2	▲0.3	3.9	▲0.3	▲0.3	▲0.5	▲1.0	3.5	▲1.2
	5月	0.2	▲0.1	▲0.6	1.5	▲0.2	▲0.5	▲0.8	▲1.3	0.3	▲0.7
	6月	▲0.2	▲0.2	▲0.6	▲1.7	0.1	▲0.6	▲0.6	▲1.0	▲3.2	▲0.6
	7月	▲0.4	▲0.3	▲0.6	▲4.0	0.1	▲0.8	▲0.6	▲1.0	▲5.0	▲0.6
	8月	▲0.4	▲0.3	▲0.5	▲4.1	0.0	▲0.7	▲0.5	▲0.9	▲3.8	▲0.8
	9月	▲0.3	▲0.1	▲0.6	1.8	▲0.1	▲0.7	▲0.4	▲1.1	2.5	▲0.7
	10月	▲0.4	0.0	▲0.5	3.9	▲0.2	▲0.8	▲0.4	▲1.0	3.4	▲0.9
	11月	▲0.2	▲0.1	▲0.5	2.8	▲0.2	▲0.5	▲0.5	▲0.9	2.4	▲1.0
	12月	▲0.1	▲0.2	▲0.6	3.1	▲0.4	▲0.6	▲0.6	▲1.0	1.7	▲1.2
13	1月	▲0.3	▲0.2	▲0.7	4.8	▲0.4	▲0.5	▲0.5	▲0.9	3.8	▲1.0
	2月	▲0.7	▲0.3	▲0.9	7.9	▲0.5	▲0.9	▲0.6	▲1.0	7.0	▲1.1
	3月	▲0.9	▲0.5	▲0.8	1.8	▲0.6	▲1.0	▲0.5	▲0.8	▲0.9	▲1.2
	4月	▲0.7	▲0.4	▲0.6	▲0.9	▲0.6	▲0.6	▲0.3	▲0.7	▲1.7	▲0.8
	5月	—	—	—	—	—	▲0.2	0.1	▲0.3	0.0	▲0.7

(出所)総務省統計局「消費者物価指数」

(注)2010年12月以前の前年比は05年基準の値

○ デフレ圧力が和らぎつつある

総務省より発表された2013年4月の全国消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比▲0.4%（3月▲0.5%）となり、前月から下落幅が0.1%Pt縮小した（市場予想も▲0.4%）。昨年4月に上昇（前月比+2.1%）していた裏が出たことで、石油製品が下落に転じた（前年比寄与度：3月+0.07%Pt → 4月▲0.04%Pt）ことが押し下げ要因になった一方、過去の燃料費上昇の影響から電気代・都市ガス代が上昇した（前年比寄与度：3月+0.12%Pt → 4月+0.16%Pt）ことに加え、自動車保険料（自賠責、任意）の値上げも押し上げ要因（前年比寄与度：3月+0.03%Pt → 4月+0.14%Pt）になり、CPIコア全体では下落幅が小幅縮小した。また、食料・エネルギーを除く総合（米国型コア）は前年比▲0.6%と、前月（▲0.8%）から下落幅が0.2%Pt縮小している。自動車保険料の上昇のほか、宿泊料や外国パック旅行、テレビなどが押し上げに寄与した。

季節調整済み前月比では、CPIコアが+0.1%（3月：横ばい）、米国型コアが+0.3%（3月：+0.1%）である。ここにきて、やや改善の動きが出始めたように見える。

○ 東京都区部は2009年3月以来のプラス転化

一方、2013年5月の東京都区部消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比+0.1%と、前月の▲0.3%から大きく改善し、2009年3月以来のプラスに転じた。市場予想の▲0.2%を大幅に上回るサプライズだ。また、

米国型コアも前年比▲0.3%と、前月の▲0.7%から下落幅を大幅に縮小させており、デフレ圧力が和らいでいることが窺える。

燃料費上昇を反映して電気代、ガス代のプラス寄与が大幅に拡大（前年比寄与度：4月+0.34%Pt → 5月+0.49%Pt）したことに加え、テレビが予想外に上昇（前月比+14.5%、3月の前年比▲23.1%→4月+0.9%）したことが押し上げ要因になった。また、ハンバーガーの値上げ（前年比寄与度：4月0.0%Pt → 5月+0.04%Pt）や、被服および履物のプラス転化（前年比寄与度：4月▲0.02%Pt → 5月+0.01%Pt）なども押し上げに寄与している。

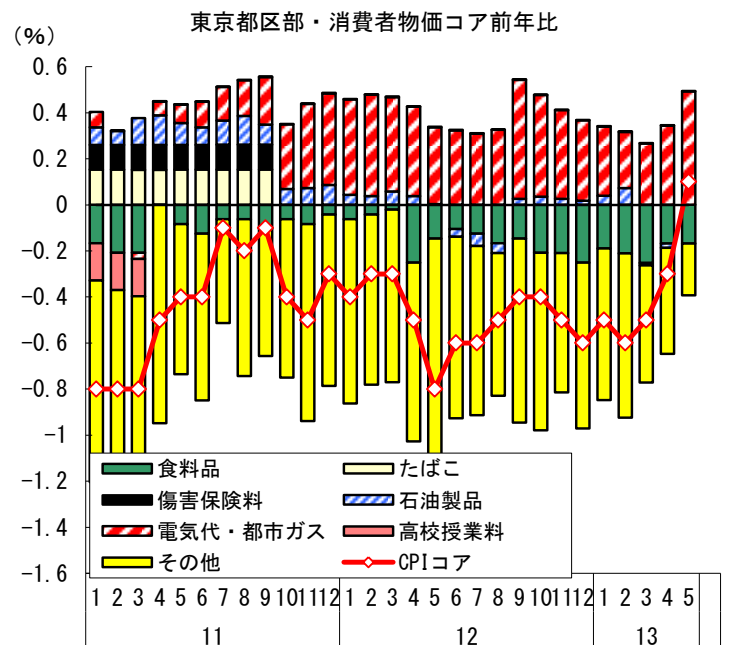
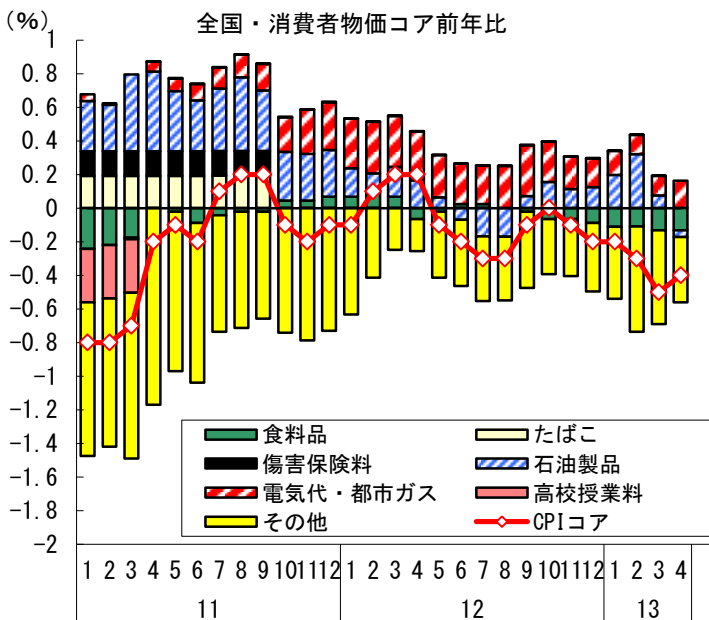
なお、季節調整済みの前月比は、CPIコアが+0.3%、米国型コアが+0.1%である。季節調整値でも改善の動きが出ている。

○ 全国でも5月にプラス転化の可能性あり

東京都区部の動向から判断すると、2013年5月の全国CPIコアは前年比0.0%～+0.1%が予想される。4月の▲0.4%から大きく改善するだろう。微妙なところだが、東京都区部と同様にプラス転化する可能性も十分ある。筆者はこれまで、CPIコアは6月にプラス転化すると予想していたが、5月に前倒しになる可能性も出てきた。

影響が大きいのは電気代であり、プラス寄与の拡大が予想される。過去の燃料費の上昇や再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度に基づく上乗せ額の引き上げに加え、5月からの電力大手2社による大幅値上げの影響が大きい（5月の東京都区部には電力大手2社の値上げの影響は含まれていないため、全国では電気代の上昇率が東京都区部よりも大きくなる）。また、前年の裏の影響で石油製品価格が前年比で改善が見込まれるほか、東京都区部の結果を踏まえると、テレビも押し上げに寄与しそうだ。

なお、仮に5月の全国CPIコアが前年比で横ばいにとどまった場合でも、6月のプラス転化はほぼ確実な情勢である（前年比+0.2～+0.3%程度か）。5月、もしくは6月にCPIコアはプラス圏に浮上し、その後も緩やかな上昇を続けるとみられる。



(出所) 総務省「消費者物価指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。